

No.212
2025年8月1日
滋賀県竜王町議会



AFTER

りゅうおう

議会だより



BEFORE



ひだまり学舎に集合!

(関連記事は裏表紙をご覧ください)



- 定例会報告 P2~ 名誉町民表彰を創設
- 委員会報告 P4~ 議員定数は据え置き
- 一般質問 P7~ 地域公共交通の充実を

6月
定例会



まち全体で町制70周年を
盛り上げよう!

町民の皆さんが主体的に
実施される70周年記念
事業を応援します!



詳細はこちら



わたSHIGA輝く国スポ・障スポ 2025

国スポ
開催まで 58日

竜王町
開催まで 63日

※ 8月1日現在

令和7年度一般会計補正予算(第1号)

7955万円を追加し、予算総額122億9955万円に

6月定例会が、6月2日から25日までの24日間の会期で開かれた。

本会議1日目(2日)に、条例5件、令和7年度補正予算2件、繰越計算書4件が提案された。

本会議2日目(10日)に、条例4件、補正予算1件、繰越計算書4件を可決・承認し、条例1件は教育民生常任委員会に、一般会計補正予算は予算決算常任委員会に審査が付託された。

本会議3日目(19日)に、一般質問が行われ10議員が町政をただした。

〔一般質問の記事は、P7以降に掲載〕

最終日(25日)に、条例1件、工事請負契約の締結2件が追加提案され、即決で可決された。また、委員会に付託された案件は原案通り可決された。

集落営農活性化プロジェクト促進事業

町内2法人での、共同利用の機械購入や若者等の雇用に必要な費用の増額。

227万円

農業水路等長寿命化・防災減災事業 (ため池詳細調査業務委託料)

山之上地先の宝来池耐震調査費用

200万円

公共交通デジタル技術活用業務委託料

ICOCAとマイナンバーカードの連携サービスを活用して、通学定期を半額でオンライン購入するためのシステム構築費用。

320万円

申請者



定期券購入

半額

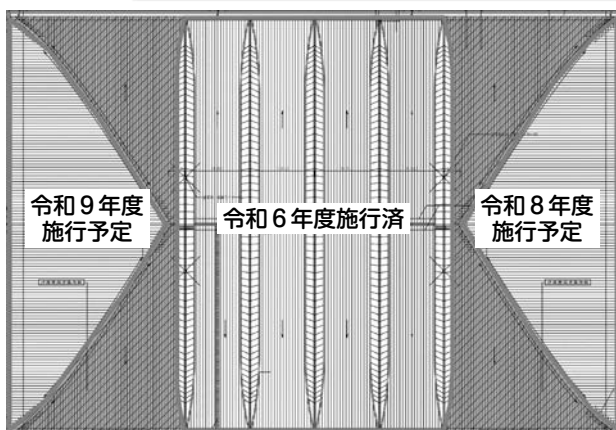
マイナンバーカード認証
本人確認



工事請負契約 の締結 (6月25日)

●学童保育所新築工事
契約金額
2億7159万円
(p.4にイメージ図掲載)

●総合運動公園屋根付き
多目的グラウンド屋根
改修工事その2
契約金額
7040万円



令和9年度
施行予定

令和6年度施行済

令和8年度
施行予定

ドラゴンハット屋根平面図(色の濃い部分が今年度実施)

いつまでも続く 物価高騰

調整給付金事業

【国の交付金を用いた物価高騰対策】
令和6年分所得税額の確定により、昨年度の調整
給付金に不足が生じた方に対して給付。

6650万円



補正予算の主な事業

耕・畜・工連携 バイオマス資源循環事業

栽培実証や土壌分析に必要な費用の増額。

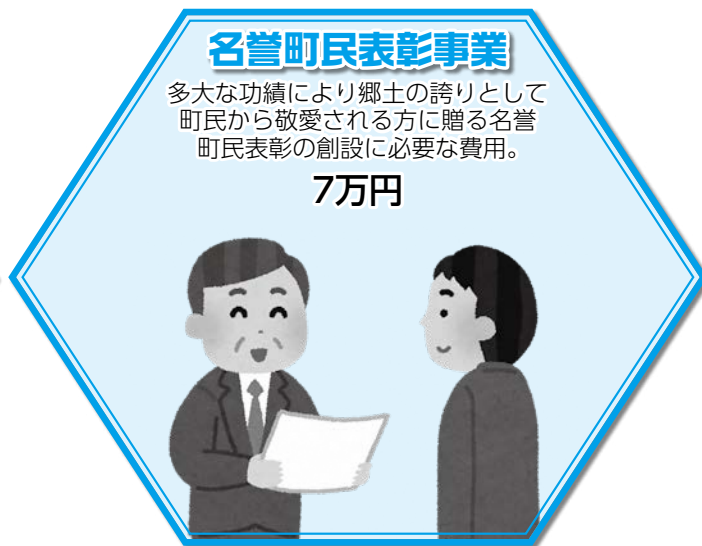
13万円



名誉町民表彰事業

多大な功績により郷土の誇りとして
町民から敬愛される方に贈る名誉
町民表彰の創設に必要な費用。

7万円



質疑

問 名誉町民表彰事業
で、検討委員会と審査委
員会の違いは。

答 検討委員会は、名誉
町民表彰の創設にあた
り、どういった方がふさ
わしいのか基準を設け
る。

審査委員会は、名誉町
民の候補者となる方を決
定する。

問 耕・畜・工連携バイ
オマス資源循環事業の栽
培実証の品種および栽培
場所は。

答 バイオ液肥により水
稲、小麦、大豆、そば等
が栽培されており、水稲
は山之上、岩井、鶴川、
山中、大豆は岩井、そば
は弓削である。

子育て支援の充実

教育民生常任委員会は6月12日審査および所管事務調査を行い、竜王町病児保育事業および新設する学童保育所について説明を受けました。



「竜王町病児保育事業」令和7年8月1日より開始！

事業内容： 疾病の回復期には至っていないが、当面症状の急変のおそれがない状態、又は、疾病の回復期にあり、集団保育を受けることが困難で、かつ、保護者の勤務の都合により家庭で保育を受けることが困難な児童を一時的に保育する。

場所： 竜王こども園内の施設で受け入れ

利用定員： 1日3名以内

利用時間： 8:30～17:00（月曜日から金曜日）

対象児童： ①～④全てに該当する児童

- ①町内に居住する児童
- ②生後6か月から6歳到達年度の末日までの児童
- ③保育園、認定こども園、認可保育所、企業主導型、または、地域型保育所に在籍している児童
- ④医師が病児保育室を利用することが適当と認めた児童

保育料： 1回 2000円

ただし、

* 住民税非課税世帯／ひとり親世帯＝1000円

* 生活保護世帯／住民税非課税世帯でひとり親世帯＝無料



主な質疑応答

問 利用にあたって事前登録が必要なのはなぜか。また要望も多い病児保育事業であることから、こどもひろばやこども園等以外にも広く周知が必要なのではないか。

答 事前登録については、保育料算定のため必要な条件となる。周知については、利用対象者となる児童の保護者だけでなく、町のホームページ、チラシ等での周知に努める。



学童保育所新築の今後の予定は！

年々、利用希望者が増加の傾向にあり、令和6年度には竜王小学校区でリース契約で施設を増設し対応されています。現在、両小学校生徒541名中224名（41.4%）が利用しています。



竜王町学童保育所新築工事イメージ図

令和7年8月上旬 建築工事着手

令和8年3月上旬 工事完了

令和8年9月上旬 開所予定

主な質疑応答

問 新設する学童保育所のクラス数と収容児童数は。また、開所時期は。

答 1クラス45名の5クラスを予定している。新小学校の開校と同時期を考えている。

さらなる ゴミ減量を

総務産業建設常任委員会は6月12日に所管事務調査を行い、循環型社会の推進、また人事戦略の取組状況と課題について説明を受けました。



ごみ減量と再資源化は

●循環型社会とは

持続可能な社会を生み出すために流通、消費、廃棄という流れの中で、資源の有効利用や環境負荷を最小限に抑えることを目指すものである。

●ごみ減量と再資源化は

町全体のごみ排出量は減少、町民一人一日当たりの排出量や食品ロス発生量も減少傾向だが、目標値には届かず、ごみの再資源化率は過去より減少している。

再資源化促進の施策

- ①生ごみの堆肥化や衣服リサイクルの啓発
- ②生ごみ処理機等の購入補助を実施
- ③令和6年3月に竜王町食品ロス削減推進計画を策定し、10月にフードドライブ事業を実施した。

●今後の見通し

- ①ごみの分別が安易となるよう、ゴミ出しブック、分別アプリ、ごみカレンダーを活用頂くよう情報発信に努める。
- ②出前講座を実施し、ごみ減量化および再資源化を促進する。
- ③エコライフ推進協議会の活動を中心に、企業・団体との連携によるエコフェスタを令和8年度に開催し、効果的な啓発を行う。



衣服のリサイクル



人事戦略の取組みと検討する解決策

●人事戦略の背景

人口減少や少子高齢化の進行とデジタル社会の進展などから行政を取り巻く環境は大きく変化し、また職員の働き方に対する価値観が多様化する等、人事全般にわたり問題がある。本町は全国状況に比べて正規職員の平均年齢が低く、平均経験年数は著しく短い、組織全体の経験値が低い。

	平均年齢	平均経験年数
全国地方公共団体	41.7歳	19.3年
竜王町	39.6歳	13.4年

《正規職員の平均年齢および経験年数（令和6年度）》

主な質疑応答

問 右記①～③の3つの施策推進のため、検討する解決策の優先順位やスケジュールは。

答 職員の意見を取り入れながら、まずできることから整理していく。

●解決すべき問題

- ・職員同士のコミュニケーションの希薄化
- ・育児短時間勤務などを完全に取得できる職場環境の整備
- ・職員の心の健康への配慮

●今後の取組みと検討する解決策

総務課に人事戦略担当課長を配置し、以下の3つの施策を多面的・複合的に推進していく。ワーキングを実施し、実施可能な解決策から実行する。

- ①処遇改善と働きがいの向上
- ②ワーク・ライフ・バランスの推進
- ③戦略的な人材採用

●めざすべき職員像

竜王町に愛着を持ち、やりがいとプロ意識を高め合いながら、互いを認め合える職員

中心校整備(交流・文教ゾーン)の進捗と今後の見通しは

令和7年6月16日、地域活性化特別委員会の所管事務調査において交流・文教ゾーン整備のスケジュールならびに事業費の見直し内容について説明を受けました。

「交流・文教ゾーン」整備スケジュール（令和7年6月時点）

	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)	令和12年度 (2030年度)	令和13年度 (2031年度)	令和14年度 (2032年度)
竜王小学校	建築	■令和8年9月開校						
学童保育所	建築	■令和8年9月開所（小学校開校に合わせる）						
学校給食センター			建築		■令和11年4月供用開始			
竜王こども園						建築		■令和14年4月開園
公園		整備	■令和10年3月供用開始					
コミュニティセンター					建築		■令和13年4月供用開始	

事業費（令和7年6月時点）

- ①竜王小学校建築 合計43億6200万円 ③公園整備・道路・造成・上下水道工事 合計21億9700万円
 ②その他建設費 合計29億6500万円 ④用地取得 合計5億9200万円



新竜王小学校建築現場
(7月11日現在)

主な質疑応答

問 その他建設費の内訳は。

答 学童保育所：3.4億円、竜王こども園：5.6億円 学校給食センター：10.5億円 コミュニティセンター：10.1億円としている。



議員定数見直しは、現状通り12名で決定！

議会改革特別委員会を6月16日に開催し、議会改革の諸事案について報告と議論を行いました。

【主な議題】

- こども議会の報告
- 議員定数見直しの最終結論
- 議会活動の見える化は
- 議会BCPの素案を審議

(1) こども議会の報告

- こども議会の参加募集チラシの配布は、小・中学校とも6月24日に予定し、締切は7月11日とする。
- 6月23日は西小学校5・6年生に向け、直接説明する。
- 中学2年生の職場体験で役場配属の生徒に声をかける。

(2) 議員定数見直しの最終結論

議員定数は最終的な議論の結果、採決を採り、現状通り12名とすることに決定した。

(3) 議会活動の見える化は

議員のなり手不足の一因でもあり、議員全員の責任であることを認識し、次回選挙までに何らかの対策を講じる。

(4) 議会BCPの素案を審議

議会の業務継続計画（BCP※）の素案を確認し、今後町地域防災計画にどう盛り込むか、生活安全課と協議する。

※BCP…業務継続計画（Business Continuity Plan）の略称。

町政 ここを問う!

6月定例会では10議員が19問の一般質問を行いました。

一般質問とは、議員が町長などの執行機関に対し、事務の執行状況や将来の方針などについて所信や疑問を質し報告や説明を求めることです。

ページ	質 問 者	質 問 事 項
8	鎌田 勝治	・ 竜王町DX推進計画の進捗は ・ 地域防災の現状と強化は
9	大橋 裕子	・ 児童の登下校に対する熱中症対策は ・ 町民歌「竜王町のうた」の普及を
10	磯部 俊男	・ 認知症対策での補聴器購入費助成を
	中村 匡希	・ 通学バス委託費4000万円時代の対応は
11	三宅 政仁	・ 町内の道路補修整備の取組は
	澤田 満夫	・ 商業ゾーンへの飲食店の誘致は
12	若井 政彦	・ 物価高騰対策は ・ 地域コミュニティの維持活性化は
13	森島 芳男	・ 持続可能な竜王町を ・ 学校に行きづらい児童・生徒の支援を
14	橘 せつ子	・ 地域公共交通の充実を ・ 「交流・文教ゾーン」整備のスケジュール見直しは ※こども誰でも通園制度の導入は ※ジェンダー平等の視点からも生理用品の設置を ※フリースクール利用世帯への支援を
15	内山 英作	・ 「健康福祉の郷づくり」をめざして ・ 道の駅発、観光の推進を

各議員のQRコードを
スマートフォンで読み
取ると音声配信が聴け
るよ



近江うし丸

※は紙面の都合上、掲載しておりません。

各ページのQRコードから、全ての質問がお聴きいただけます。

次回の一般質問は
令和7年9月25日(木)予定

※日程は変更になる場合があります。

※議員の質問順と質問事項は町ホームページでご確認ください。

問 議会事務局 電話 0748-58-3713



かまだ 鎌田 かつじ 議員

問 竜王町※¹DX推進計画の進捗は

答 取組内容の見直しを進める



オンライン会議の様子

※¹ DX…進化したデジタル技術を浸透させることで、人々の生活をより良いものへと変革させるという概念。

※² AI…人工知能。

答
①事務負担の軽減に繋がった一方で実現に至っていない事項もあり、AIの利用は限定的である。今年度の計

問 業務改革の取組、※²A Iの利用促進、行政手続のオンライン化について、次の3点を伺う。
①具体的な取組と進捗、今後のスケジュールは。
②全庁的な取組は。
③子育てや介護の手続の現状と課題は。

画改訂を機に内容の見直しを図る。
②自治体システムの標準化に関する業務では、事務フローの見える化が一定図れると認識している。他業務は課題の洗い出しが必要である。
③現状は対面申請だが、本年3月の条例制定により、庁内のオンライン化の土台が整備された。
今後、住民の利便性向上や業務の効率化の効果を見極めたうえで必要に応じて実用化したい。

問 地域防災の現状と強化は

答 各地区での防災活動の推進に積極的に取り組む

問 次の4点を伺う。
①32自治会の自主防災組織の現状は。
②組織が形骸化している自治会へのサポートは。
③避難行動要支援者名簿の登録状況は。
④共助の強化への行政の具体的な取組は。

答
①全自治会で組織化されており、昨年度の自主防災訓練も31地区で開催された。
②自治会長対象の研修会や防災出前講座、訓練事例集の配布などの情報提供に努めている。
③個人情報提供に同意頂いた方は、昨年より9名増の137名である。引き続き各地区の関係役員と連携しながら、拡大に努める。

④各地区で手引き書やマニュアル等の整備を進める。また、防災士を

育成し、自主防災組織の強化につなげる。



竜王町防災訓練の様子



おおはし ゆうこ
大橋 裕子 議員



問 児童の登下校に対する 熱中症対策は

答 町内全体の課題として議論する



熱中症対策で利用できるようになった路線バス

問 昨年、酷暑の下校中、体調を崩す児童がでた。路線バス利用等の要望を出していたが、今年度西小学校区の保護者からも熱中症対策の要望書が提出された。

①今夏の登下校時の暫定的な熱中症対策は、

②来年度以降、登下校時の恒久的な熱中症対策は。

答 ①公共交通機関（路線バス）を利用できるものとする。そのため、以下の点について対応している。

- ・利用に関する安全指導
- ・バス利用時の安全確保
- ・バスダイヤに合わせ学校カリキュラムの調整
- ・チャイソコ利用ができることをバス車内に掲示依頼している。

②スクールバス乗車地区の見直し、利用基準、運行形態は、町内全体の課題として熱中症対策の視点も含めて検討する。



問 竜王町には町民歌「竜王町のうた」がある。町民の作詞、作曲によるもので、町の自然や歴史文化が歌われている。

先日行われた町制施行70周年記念式典において歌われたが、若い世代には知られていない。町はこの歌を次の世代へどのように歌い繋げていくのかを伺う。

問 町民歌「竜王町のうた」の普及を

答 町主催の行事等で可能な範囲で取り組みたい

答 町民歌「竜王町のうた」は今から65年以上も前の町勢要覧に掲載されていた。

このことから、昭和30年の町の誕生を記念し、先人たちが町への熱い思いを込めて作られた歌であることが推察できる。

現在、役場において毎日始業前に庁内放送で流しているが、次の世代に引き継ぐような取り組みはできていない。

町が主催する行事等、可能な範囲でこの歌を流し、引き継いでいきたい。

竜王町のうた

作詞 西原正子
作曲 村地保彦

一、 仰ぐ大空 夢かよう
山はみどりに 虹の里
ああ新生の 朝ぼらけ
老いも若きも 手をつなぎ
明るい竜王 うたおうよ
うたおうよ



町民歌「竜王町のうた」

問 認知症対策での補聴器 購入費助成を

答 補聴器の効果の調査を進める



いそべ 磯部 としお 俊男 議員



各種補聴器



認知症カフェ（ふきのとう）

問 認知症対策での補聴器購入費助成制度への町の考えは。

対策について「聞こえのフレイル予防」等に取り組む。

答 難聴が※フレイルや認知症のリスクとして認識されている。補聴器などの難聴への介入が有効な効果をもたらすかどうかの根拠は限定的であるため、現段階では制度化していない。

加えて、今後の高齢者の増加を見据え、第10期介護保険計画を策定する中で、他市町の加齢性難聴の早期発見・対応の取組や、補聴器の購入費助成の実施市町村において、今年度内に調査・研究を行う。

しかし、「聞こえ」は生活の質を維持するため重要な要素であることから、難聴予防の必要な

※フレイル……健康な状態と要介護状態の中間の状態

問 通学バス委託費4000万円 時代への対応は

答 効率的な方法を検討する



なかむら 中村 まさひろ 匡希 議員



近年、運営費が上昇しつつあるスクールバス

問 今年度予算で通学バスの委託料は4000万円となり、直営時代の水準まで上昇している。今後の運行方法を検討すべきでは。

答 近年の委託料の上昇は、国の運賃水準の改定や燃料費の高騰が大きく影響している。これまでの運行方法を踏襲するだけではなく、より経済的・効率的な方法を検討する必要があると考えている。

具体的には、直営、外部委託、またはその複合型や、既存の路線バスの併用などの新しい手法も視野に入れる。子どもたちの安心安全な登下校を維持しつつ、安定した運行方法を研究していきたい。



みやけ まさと 三宅 政仁 議員



問 町内の道路補修整備の取組は

答 修繕計画に基づき、計画的に進めている



町道東西線の路面に轍やひび割れが発生

問 中心核整備が進む町道東西線は路面状態が悪く、放置すれば通行車両の故障や事故につながる。そこで次の点を伺う。

① 町内の道路補修整備計画の進捗は。

② 町道東西線の路面状態を把握しているか。

③ 交流・文教ゾーンの工事完了までの町道東西線の安全確保については。

答 ① 修繕計画は平成25年に策定し、概ね3年毎に見直している。交通需要に対応するため、重要度、緊急度等を考慮し実施時期を定めている。各計画の進捗はおおよそ計画通り進んでいる。

② 経年による損耗、工事車両の通行により轍やひび割れが顕著になった事は把握している。

③ 中心核整備事業が完了するまで、適時パトロール等で路面状況を把握するとともに迅速な補修を行う。



さわだ みちお 澤田 満夫 議員



問 商業ゾーンへの飲食店の誘致は

答 意欲ある業者が現れば、実現に向け協力する



できないか商業ゾーンの飲食店

問 中心核の交流・文教ゾーンの整備は、計画より遅れ、最後の複合ゾーンの整備は、今ではいつになるか予想できない。

全体構想が長期遅延した場合の対応として、居住ゾーンと同時期に将来の複合ゾーン整備への展開を考慮し、現商業ゾーンに繋ぎの飲食店を誘致すべきでは。

答 現在、複合ゾーンの開発に興味を示す事業者もあるが、居住ゾーンの

整備が進み若い世代が増えていくのが前提である。また、居住ゾーンの整備後でないと市街化区域の編入はできない。提案の商業ゾーンへの飲食店の誘致は、過去に複数の事業者に対し働き掛けをしてきたが実現しなかった。町としても町内外の方々が希望されていることは認識しているが、まずは当事者である飲食店から意欲を示してもらう必要がある。今後、意欲を示す事業者が現れば実現に向け協力する。



わかい まさひろ
若井 政彦 議員

問 物価高騰対策は

答 町独自の対策の実施予定はない



家計のやりくりは大変

問 物価高騰に苦しむ町民への対策は。

答 国の様々な対策も、物価高騰に所得の上昇が追いつかず、効果が実感しにくい状況であると認識している。令和6年度からは町独自の施策として、義務教育である小中学校の学校給食の無償化を実施してきた。

限られた町財政の中では、バラマキではなく町内で使用できる割引クーポン支給など波及効果のある取り組みが必要と考えられるが、現時点では町独自の対策を実施する予定はない。

農業、商業をはじめあらゆる分野に影響が波及している。今後の経済状況や国の動向を踏まえながら、何が必要か現状の課題解決に向けしっかりと状況把握に努めたい。

問 地域コミュニティの維持活性化は

答 自治会の意思を尊重し支援を行う

問 地域コミュニティの維持活性化への取り組みの現状と成果および課題は。

答 「現状と成果」

①令和6年度は、自治会へ依頼していた推進員などの選出見直しや全戸配布の見直しを実施した。

②自治会連絡協議会研修会で、町内自治会の取り組み事例から情報や課題を共有した。

③未来へつなぐまちづくり交付金に特別加算枠を設け、「持続可能な自治会運営検討事業」に3自治会が取り組まれた。

④自治会間の連携支援など中間支援組織の立ち上げ準備に着手した。

〔課題〕

地域での議論が進みに



老若男女が集う地域サロン

くく、自治会内での課題や危機感の共有と解決に重しをつづ継続した支援を若者や女性が参画し検討することが難しい状況で



もりしま よしお
森島 芳男 議員



問 持続可能な竜王町を

答 コンパクトシティ化構想を実現する



竜王町コンパクトシティ化構想

問 平成26年に「消滅可能性都市」が発表され、竜王町もその中に含まれていた。令和5年12月に、竜王町は「消滅可能性都市」から脱却した。次の3点を伺う。

①この結果について分析はできているか。

②人口減少に歯止めをかける施策は。

③持続可能な竜王町にするためには。

答 ①松が丘周辺の集合住宅での若年層の人口増と考えている。

②若い世代の流出を留め、転入を増やす。また、子育てや教育環境を充実すること、出生数の改善に努める。

③竜王町全体のバランスのよい発展を掲げたコンパクトシティ化構想を実現する事である。

問 学校に行きづらい児童・生徒の支援を

答 魅力ある学校づくりに努める

問 不登校の児童生徒や登校するが教室に入りづらい児童生徒への現状の把握と対応は。

また、今後どのような学校づくりが必要と考えているか。

今後、個々の児童生徒の状況を的確に把握して支援を行いたい。一人ひとりの子どもが大切にされ、自己実現の場となり、登校を楽しみにできるような魅力ある学校づくりを努めていきたい。

答 年間30日以上欠席した児童生徒の割合は、全国に比べて低い値となっている。各学校では、担任や専門員等を中心として学校に不登校の児童生徒への対応をおこなっている。

また、町費でスクールソーシャルワーカー、別室登校対応支援員等を配置しており、不登校の予防にも努めている。



教育支援ルーム「なないろ」



こせき せつ子 議員

問 地域公共交通の充実を

答 持続可能な公共交通を検討する



チョイソコリゅうおうも地域公共交通に活躍

問 路線バス岡屋線は、令和7年4月から平日5便、土日祝日は4便が減便となった。運転手不足によるとのことだが、

①町はこれに代わる交通手段は考えられているのか。

②住民が利用しやすい運行ダイヤの組み方や、チョイソコリゅうおうの運行台数を増やす等、住民の声が反映できるよう竜王町地域公共交通活性化協議会でも検討できないか。

答 ①代替手段として八幡アウトレット線の竜王町タウンセンターへの乗入れを開始した。竜王町タウンセンターからだと、近江八幡駅までの便数は増えており、乗り継ぎ拠点であるタウンセンターまでチョイソコリゅうおうを利用するとバス代が無料となる。

②人口減少による利用者減、厳しい財政状況、運転手不足等の課題を直視し、あらゆる選択肢を排除せず持続可能な公共交通を検討する。

問 「交流・文教ゾーン」整備の

スケジュール見直しは

答 こども園、コミュニティセンターは当初より遅れる

問 令和7年第1回定例会で「整備の予算が大幅増額になるので、整備スケジュールを見直す方向」と説明されたが、

①給食センターやこども園、コミュニティセンターの予定はどうなるのか。

②予算は大幅増額とのことだが、現在の予算の執行状況と今後の各施設の予算の見通しはどうなるか。

③町の他事業との関係から、今後10年間の中期財政計画を示すべきではないか。

築工事で令和11年4月供用開始予定である。こども園は令和14年4月開園予定、コミュニティセンターは令和13年4月の供用開始予定である。

②令和6年度は、決算期見込額で合計約24億4千万円となっており、今後の各施設の事業費は小学校建築で約43億6千万円、その他施設の建築で29億6千万円を想定している。

③中期の財政計画についてはそれぞれの時期に示す。



建て替えが急がれる給食センター

答 ①学校給食センターは安心安全な給食を最優先し、令和9～10年度建

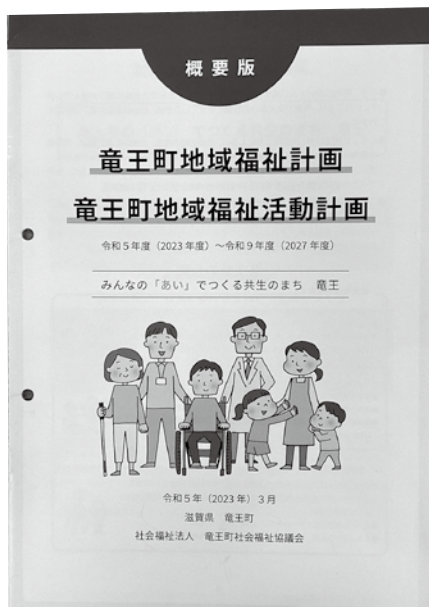


うちやま えいさく
内山 英作 議員



問 「健康福祉の郷づくり」をめざして

答 町地域福祉計画《基本理念》の実現をめざす



行政の「地域福祉計画」と社会福祉協議会の「地域福祉活動計画」を一つにした計画

問 第6次竜王町総合計画での「地域共生社会の構築」では、実現したい未来の姿を「誰もがその人らしい生活が継続でき、地域の中で互いに助け合い、健康でいきいきと安心して暮らせるまちになっています」とある。そこで、各自治会あるいは近隣自治会での合同の「健康福祉の郷づくり」をめざしていくことが、本町の未来の姿であると考えるが。



歩くことで身体と心は健康に

答 国が示す地域共生社会とは、地域住民や地域の多様な主体が参画し、地域とともに創っていく社会である。
町地域福祉計画の基本理念でもある『みんなの「あい」でつくる共生のまち竜王』の実現に向けて、ご協力ご指導をお願いしたい。

問 道の駅発、観光の推進を

答 関係機関との連携による観光振興に努める

問 近年、道の駅を活用した観光振興に活発に取組む所が増加し、観光客数の増加やふるさと納税の増額、各市町村のPRなどに大いに寄与していると聞く。そこで、本町および近隣市町や滋賀県での取組の現状と今後の予定はどうか。

答 令和7年1月時点で県内の道の駅は20か所、全国では1230か所である。
町内の2つの道の駅は、農産物の直売を通じた農業振興と、町の情報発信として重要な役割を果たしている。
また、滋賀県道の駅連絡会との連携事業では民



上・中 道の駅 アグリパーク
竜王の看板と農産物直
売所、レストラン
右 滋賀県「道の駅」マップ
(表紙)

シリーズ がんばる私たち

子どもが自分らしく楽しめるように

NPO 法人竜王子育てネットワーク 代表 小川 岳彦

私たちは学童保育が母体の子育ての支援組織で、令和元年にNPO法人化しました。

現在は町内6か所の学童保育、障害児者相談支援事業「コトノハ」、第三の居場所作りの地域総動事業（おむすび・みちくさ・おむすび塾等）の3つを実施しています。昨年度より「ひだまり学舎」を管理・運営している「暮らし育て組」も法人の仲間入りをしました。

いずれも「その人がその人らしく楽しめる！」を大事にしています。私たちの活動はこちらのYouTube番組をぜひご覧ください！



表紙

ひだまり学舎に集合！

竜王町林の「ひだまり学舎」は、空き家だった古民家を地域の皆さんと地域おこし協力隊が改修したコミュニティスペースです。今では子育てや暮らしの学びや語り合い、米づくりやフリースクール、こだわりのランチや晩ごはんの副業を作ったり、親子イベントを催すグループなど、多彩なプログラムが開かれ、町内外から人が集まります。

畳にごろりと寝転んでおしゃべりしたり、縁側で季節の風を感じたり、子どもも大人も初めて会う人同士が自然につながれる場所です。学校でも家庭でもない「第三の居場所」として、これから学びと遊び、そして昔ながらの暮らしの知恵を伝えていくてほしいものです。



ひだまり学舎HP



編集後記

盛夏のご挨拶を申し上げます。町制施行70周年記念式典には多くの方々にご来場いただき、あらためて竜王町の絆の深さを実感しました。また、10月3～5日には「わたSHIGA輝く国スポ」スポーツライミング競技が開催されます。選手の躍動を間近で応援し、町一丸で大会を盛り上げましょう。本定例会では定数見直しを協議し、議論の末、現行の12人を据え置くことに決定しました（詳細は6ページへ）。今後は、議員の働き方の見える化とその魅力向上に努め、次の10年、20年を見据えたまちづくりに取り組んでまいります。

議会広報特別委員会

委員長	内山 英作
副委員長	橘 せつ子
委員	中村 匡希
委員	大橋 裕子
委員	澤田 満夫
委員	磯部 俊男



環境に配慮し、再生紙及び植物油インキを使用しています